

無心の風

鮮やかな紺色のユニフォームを身につけ、颯爽と集まってきた自転車部の集団、順天堂大学・自転車競技部のメンバーたち。その先頭に立ち、率いているのが主将の中尾佳祐さんだ。自転車競技とは、競技場でスピードを競う「トラックレース」と長距離を走る「ロードレース」がある。ロードレースになると、走る時間にして6時間ほど、距離は平均的に、およそ150kmにもおよぶという。この競技を始めたきっかけを中尾さんはこう語ってくれた。「中学時代は、部活も長続きしないような状況で、そんな自分を変えたいと思い、高校から自転車競技を始めました。選んだ理由は、経験者が少ないスポーツで、誰もがゼロから始められるものであったこと。何かの分野で一番になりたいという気持ちがあったんです」。自分を変えたいという想いから始めた自転車競技。ちょうど、国体で活躍した高校の先輩が順天堂大学にいたこともあり、あこがれて進学し、入部。そして、

中尾 佳祐 さん
(スポーツ科学科4年)

主将

部員の多数決で主将になった時は、「みんなから支持されたので、責任感とともに、やるぞーという気持ちになりました」。リーダーとなった中尾さんに、新たな成長のチャンスが飛び込んできた。前年のさまざまな大会での実績が評価され、全日本の23歳以下(U-23)のナショナルチームのメンバーに選ばれたのだ。自分よりも強い選手たちとの「ナショナルチームの強化合宿」にも参加した。「選手の意識も高く、すごい刺激を受けました。自分自身の自転車競技に対する意識も変わりましたし、トレーニングやマッサージの方法など、ナショナルチームで経験したことを大学のチーム

に戻ってメンバーに伝えたいという使命感も生まれてきました」。そう語る中尾さんには、チームリーダーとしての強い自覚があふれていた。「自転車競技と出会ったことで、本当に自分が変わったと思います。仲間との交流から感じた一体感、努力次第で結果が出るという達成感など、自転車のおかげで多くのことを学びました」。上り坂で無心でペダルをこぎ続けなければ生まれてこない爆発力。そこが勝負の分かれ目だともいう。自転車に打ち込んだ「無心の風」が吹いた時、勝利への扉も見えてくることだろう。

(写真文/西山俊哉)

